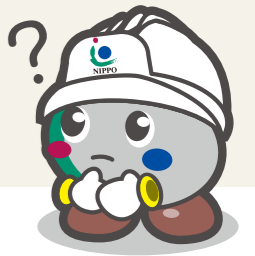


当社では、CSR活動を一層充実させるため、社内外のステークホルダーの声を重視しています。2013年度レポートでは、アンケートに対して読者の皆様から計689件のご回答・ご意見をいただきました。このページでは、いただいたご意見・ご質問のいくつかについて、当社の考えや取り組みを回答いたします。



Q. 「中温化技術」や「低炭素ポリシール」はどのような技術なのでしょうか？（学生）

「中温化技術」とは、アスファルト混合物の製造温度を通常よりも約30℃低下させ燃料消費量を低減し、CO₂排出量を約15%削減することができる環境に優しい低炭素アスファルト舗装です。当社では、この技術によるアスファルト混合物を「エコファイン」と呼んでいます。発泡系の特殊添加剤をアスファルト混合物に添加することで、製造時の混合性や舗設時の締固め性を向上させています。

「低炭素ポリシール」とは、プレミックス材(当社商品名:ポリバックLC)、およびセメントミルク製造時のCO₂排出量を大幅に削減した半たわみ性舗装です。施工方法は従来工法と同様で、プレミックス化された材料に水を加え練り混ぜてセメントミルクを製造し、開粒度アスコン等に浸透させた舗装(当社商品名:ポリシールLC)です。当社従来比で13%以上のCO₂排出量を削減しています。



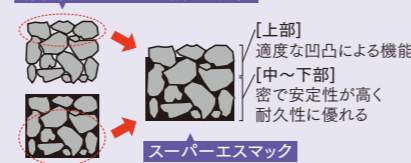
A.

Q. 積雪寒冷地用の排水性舗装はないのでしょうか？（従業員）

積雪寒冷地での排水性舗装は除雪作業による骨材飛散や、排水性舗装の空隙に溜まった水分が凍るなどの理由で採用実績が少ないようです。このような場合は「スーパーエスマック」という新しい多機能舗装が最適です。「スーパーエスマック」は、舗装の上面は排水性舗装のような多孔質層で下層は密な層になっています。

したがって、沿道への水はねの低減、雨天時のすべり抵抗性の向上、道路交通騒音の低減、高い耐久性に加え、独立した適度な凹凸を路面に有することから、一般舗装や排水性アスファルト舗装に比べ散布した凍結防止剤が流出しにくく、凍結防止剤の散布効果の持続性が向上する舗装です。

排水性アスファルト舗装の機能



耐久性に優れるSMA

▲スーパーエスマックの舗装断面の概念図

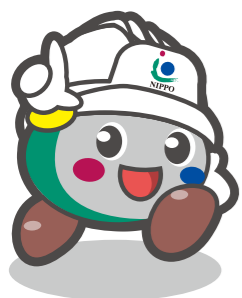
A.

Q. 建築は設計・施工期間に比べ、解体されるまでの施設利用期間が圧倒的に長いので、施設利用期間中の環境について具体的にアピールしてはどうですか（従業員）

ご指摘の通り、建物使用開始以降の環境負荷軽減はこれからの建築の大きな命題であり、事業主からの要望事項でもあります。また、建物のライフサイクルは設計で決まると言っても過言ではありません。

建築設計ではCASBEE等の公的な環境総合評価指標の利用による環境配慮設計の実施、耐震改修等の建物の長寿命化へ取り組んでいます。今後実績を重ね、具体的にアピールしていきたいと思っています。

A.



Q. 災害復旧工事の事例を紹介してほしい（取引先）

当社の災害復旧工事は、自然災害により被災した公共土木施設を迅速・確実に復旧することを目的に、道路や河川・海岸、港湾、砂防施設など幅広い場所で施工されています。

東日本大震災に関連する復旧工事としては、例えば国直轄の道路や河川・海岸、港湾で復旧工事を行っており、2014年7月現在で概ね9割以上の完成状況となっています。

ここでは、宮城県南三陸町での復旧工事をご紹介します。同工事では、震災によって損壊したJR気仙沼線の線路を1年間かけてバス専用道路として仮復旧させ、地域住民の皆様の新しいライフラインを整備しました。



A.

Q. 大地震や他の災害に対してどのような対応を取られていますか？（取引先）

当社では、災害対策本部を早期に立ち上げ、従業員の安全確保と同時に、行政と連携をはかりながら迅速な復旧支援活動がとれるように、次の備えをしています。

- 事業所ごとに緊急連絡網や避難ルールを全員で確認
- ハザードマップの確認
- とっさの行動を取れるよう、事業所にポスター掲示し、従業員に常時携帯用ポケットカードを配布
- 全従業員対象の自動安否確認システムを導入
- 通信手段確保のため、ほぼ全都道府県に衛星携帯電話を配備
- 主要拠点に非常用食料・水・簡易トイレ・レスキュー用具等を備蓄

本社倉庫の備蓄状況



A.

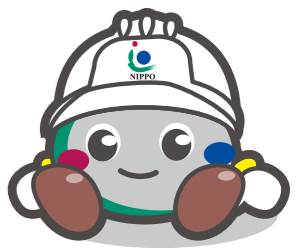
Q. ワーク・ライフ・バランスについて記述していただきたいです（学生）

当社では、従業員一人ひとりがやりがいを持って働くことができる職場づくりをCSRの柱の一つとしています。

その一環として、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組み、「ノー残業デーの実施」や「代休・振替休日・有給休暇の取得促進」等を図っています。

ご意見を受けまして、今年度CSRレポートより「従業員とのかかわり」ページ(P23-24)にて「ワーク・ライフ・バランスの実現」という項目を新設し、取り組みの詳細を紹介しています。ぜひ、そちらもご覧ください。

A.



「私のCSR」ページ

2011年度レポートから始めた「私のCSR」コーナーには、毎年たくさんの方の共感と激励のメッセージをいただいています。2014年度レポートでは、2013年度レポートに続いて、より多くの従業員に日常の取り組みを投稿してもらいました。



▶ 東北支店 小笠原 いずみ

机上や書庫など身近な場所の整理整頓を行い、書類(情報)などが紛れ込まないようにしています。放置された郵便物、FAX、印刷物は要チェックです。プリントアウトした印刷物の早期回収、FAX着信物の早期回収と担当者への配布、送信時の番号の確認、事前連絡などに気を付けています。情報の「作成と取得」「配布と活用」「保存と処分」するうえで、ちょっとした事ですが心掛けています。

▶ 関西支店 棕本 薫

関西支店では、オフィス部門の活動としてゴミの排出量の削減と再資源化に力を入れています。分別収集の徹底を事務所全員で取り組んだ結果、廃棄物の減量推進と適正処理が認められ、大阪市より「ごみ減量優良建築物」の認定を受けました。



▶ 東日本管理支社 石川 朋子

建設業は未だに男性中心というイメージが強いですが、私の職場では女性が半数を占めており、性別に関係なく仕事の分担を与えられイキイキと働いていらっしゃる方ばかりです。私自身も皆さんに負けないように周りに対する細やかな心遣いを忘れることなく、職場を明るくできるよう、まずは大きな声で挨拶・応答をするよう努めていきたいです。

▶ 関西支店 両口 純子

永遠のテーマである安全、その中で私が常日ごろ心掛けていることは、時間にゆとりを持って行動することです。慌てるという行為は危険を見失い災難を招くことにもつながりかねないことからマイルールとしています。自分なりのルールや決められたことを着実に守っていくことで大難を小難へ、そしてゼロ災へと目指すことは社会人としての責務でもあると考えています。



▶ 四国支店 吉松 信明

私は現在高速道路の舗装補修工事に従事しています。この工事の形態は供用中の路線に車線規制を設置し、その規制内で舗装工事を実施するため、私は通行されるお客様の安全な走行を常に最優先に考えています。特にインターチェンジ付近の案内看板は非常に重要であるため、その看板に高視認性の「超高輝度看板」を使用しました。この看板により昼夜ともに以前使用していた看板より視認性が良好になり、お客様のより安全な走行ができるようになりました。これからも私はお客様の安全を最優先して、業務を遂行していきます。

▶ 北信越支店 吉田 満

私が所属する部署は、日常的に「品質」という言葉と密接に関わっています。顧客から求められる「品質」を満足することは当然であり、より安全で、かつ高品質な製品・サービスの提供、あわせて環境へも配慮した「品質」管理を念頭に業務を行っています。「品質」を追求すれば当然コストがかかります。しかし、一方で「品質」をおろそかにすれば社会へ与える影響は大きく、会社が制裁を受ける場合もあります。日々バランスの取れた「品質」管理を目指し奮闘しています。



▶ 茨城統括事業所 福村 剛史

私の所属する事業所管内でも、様々な社会貢献活動を行っています。その一つは、茨城県と協力し、地域で道路をきれいにする「道路里親制度」です。道路を里子にみたくて、里親がその道路の美化につとめる制度です。現在、古河出張所、鹿島出張所が里親となり、事務所周辺の整備された1Km以上の道路について、清掃、除草活動を年6回以上実施しています。周辺には、草木、畑が多く、夏・冬の草の手入れ、砂埃除去等は美観だけでなく、交通安全にも貢献していると思われまます。また、エコキャップを集めており、現在52,320個(約60人分のワクチン)を推進協会に納入しています。